

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス めばえビオラ 放課後デイサービス			
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日 ~ 令和7年3月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日 ~ 令和7年3月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職場の風通しがよく、目標設定と支援の振り返り、活動プログラムの立案に支援者一人一人からの意見が聞けている。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の職員がチームの一員であるという意識を持ち職場づくりに参加している。 お子様に楽しく通っていただけるように、プログラムの工夫をするようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な業務遂行を行い、意見交換の時間確保を継続できるようにする。 日常的に職員間の信頼関係の構築に努め、発言しやすい雰囲気づくりを心掛ける。
2	相談や申し入れに対して、その都度職員間で共有し対応している。	<ul style="list-style-type: none"> 面談を行ったり、子育てや発達の相談に乗り、必要な情報提供を行っている。 小学校へ問い合わせを行ったり、情報交換に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> こちらから積極的に働きかけるなどして、保護者様から意見が出しやすいような環境を整える。
3	運動支援や製作活動で多種多様な活動を体験できる。また個別支援をする事で、個々の発達に応じた対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 場合に応じて、マンツーマンで対応する事によって、一人一人の成長を細かく把握する事が出来る。 集団活動を取り入れて、コミュニケーション能力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> お子様の特性に合わせたトレーニングを考えたり、ソーシャルスキルを育む療育を導入していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の営業時間内に保護者の方が集まることが難しいため。 コロナ以降、引き続き密になる活動は慎重に行っているため。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとのイベントや保護者会など、保護者間の交流機会を増やし、相互サポート体制を強化していく。
2	バリアフリーなどの環境整備の徹底が十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> 生活空間の構造化が十分ではない。 建物の構造上、バリアフリー化が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> パーテーションなどを活用して、活動が交差しないようにしていく。 リスト化された項目に沿って、定期的に安全点検を行っていく
3	非常時の対応や方策が、保護者全員には周知されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内だけで完結されていて、保護者の方々への説明に、時間が取れていらない。 個々の対応が主になっていて、事業所から全体に向けての発信ができていないため。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方々への説明会や研修会を企画して、その中で改めて伝えていく。